

絵の合成・分解 ④

◆◆◆どうして絵の合成分解をするの?◆◆◆

P Y G L I 能力育成問題集の『絵の合成・分解①』や『絵の合成・分解②』のところでも説明しましたように、小学校になって、算数でくりあがり、くりさがりの加減計算ができない子どもは、この問題をまちがいます。構成把握能力や合成分解能力が前提となって、数論理能力が創られているからです。

(詳しい説明は、能力育成問題集の『絵の合成・分解①』などの指導上のポイントを参考にしてください。)

◆◆◆指導上のポイント◆◆◆

左端の絵を3分割した3枚の絵と、不必要な絵2枚が右側に並べられています。その中から必要な3枚を選ぶという問題です。

この問題の解答方法は、左側の絵と右側の絵をまず決定することが重要です。そして、その間に入る絵を見つけるというのが基本です。ただ、左側か右側だけが決定できて、決定できた続きを考える問題もたまにあります。また、左端と右端の絵が2つあるときは、空白の距離をみると判断できます。

下の問題の解答してみます。まず、左端の絵になるのは、右から2番目の絵です。その絵にまず○をつけます。そして、右端の絵も左から2番目に決まります。残りの1つを左端、真ん中、右端から選ぶわけですが、真ん中は、選んだ右から2番目の絵と目が重なりますので、消去します。残りの2枚を比較しますと、左端は選んだ右から2番目の絵と波頭が重なりますので、これも消去します。最後の1枚は右端ということになります。それらを頭に思い浮かべて、1つの絵を完成させてみましょう。

答えがわからない場合は、答えを教えるのではなく、実際に、この絵をコピーしてからパーツごとに切ります。パズルのように組み合わせて、正確な絵を見せてから、もう一度問題を試みましょう。

